



Clinical Reference Center

# 抗菌薬意識調査レポート 2025

2026年3月31日

---

国立健康危機管理研究機構 国立国際医療センター  
AMR臨床リファレンスセンター（厚生労働省委託事業）

## 調査目的

感染症治療に必要な抗微生物薬(抗菌薬、抗生物質など)が効かない薬剤耐性(AMR)の問題が世界中で深刻化しています。日本でも2016年に「薬剤耐性(AMR)対策アクションプラン」が発表され、現在は2023年に改訂された薬剤耐性(AMR)対策アクションプランに基づき取り組んでいます。

細菌感染に対する薬剤耐性の問題は、抗菌薬(抗生物質)の不適切な使用が一因とされています。今回の調査は、抗菌薬(抗生物質)、および薬剤耐性とは何かについて、現在一般の方がどのように認識されているのかを把握し、問題点と今後の取り組みの方向性を提示することを目的としています。

## 調査概要

調査期間：2025年7月

調査方法：インターネット調査

調査対象：全国の15歳以上の男女 全国735名

男性10代56名、20代52名、30代51名、40代53名、50代52名、60代53名、70代53名

女性10代50名、20代52名、30代50名、40代54名、50代52名、60代55名、70代52名

## 設問一覧

### <抗菌薬の知識>

- Q1 あなたは薬剤耐性、薬剤耐性菌という言葉を知っていますか
- Q2 あなたは抗菌薬・抗生物質という言葉を知っていますか
- Q3 抗菌薬を不適切に使用すると体内に薬剤耐性菌が生まれる可能性があることを知っていますか
- Q4 抗菌薬・抗生物質についてあなたが当てはまると思うものをお選びください
  - Q4-1 抗菌薬・抗生物質はウイルスをやっつける
  - Q4-2 抗菌薬・抗生物質は治ったら早くやめる方がよい
  - Q4-3 抗菌薬・抗生物質を飲むと下痢などの副作用がしばしばおこる

### <抗菌薬に対する行動>

- Q5 抗菌薬・抗生物質に関する経験について教えてください
  - Q5-1 家にとっておいてある抗菌薬・抗生物質がある
  - Q5-2 としておいた抗菌薬・抗生物質を自分で飲んだことがある
  - Q5-3 他人(家族など)の抗菌薬・抗生物質を飲んだことがある
  - Q5-4 抗菌薬・抗生物質を人にあげたことがある
  - Q5-5 処方された抗菌薬・抗生物質はすべて飲み切っている

### <風邪と抗菌薬>

- Q6 抗菌薬・抗生物質は風邪に効果がある
- Q7 2025年1月以降、かぜで医療機関にかかったことがありますか
  - Q7-1 受診した医療機関ではどのような薬が処方されましたか
  - Q7-2 処方薬について説明を受け、理解しましたか
  - Q7-3 処方された薬の種類と使い方について誰から説明されましたか
- Q8 今後、風邪で医療機関を受診した場合にどんな薬を処方してほしいですか

### <感染症対策>

- Q9 朝起きたら、だるくて鼻水、咳、のどの痛みがあり、熱を測ったら37℃でした。  
あなたは学校や職場を休みますか
- Q10 あなたが感染症予防対策として、行っていることをお答えください

## 1. 抗菌薬に関する知識と行動

2025年調査では、「抗菌薬・抗生物質という言葉聞いたことがある」と回答した人は78.4%であり、抗菌薬という用語自体の認知は一定程度広がっていることが示された。

抗菌薬の基本的な知識を問う設問では、誤解や理解不足が依然として多くみられた。特に「抗菌薬・抗生物質はウイルスをやっつける」という設問では、「間違っている」と正しく回答した人は約2割にとどまり、半数以上が誤った認識を示していた。また、「治ったら早くやめる方がよい」といった自己判断による服薬中止に関しても、不正解と「わからない」との回答を合わせると67.6%であり、抗菌薬の適正使用に関する基本的理解にはなお課題が残されている。

行動面では、他人に抗菌薬を譲った経験は約4%と少数であったが、自己判断で抗菌薬を再度服用した経験は約2割にのぼっており、不適切使用が一定割合存在していることが明らかとなった。

## 2. かぜ診療について

2025年1月以降にかぜ症状で医療機関を受診した人は全体の17.6%であった。「抗菌薬・抗生物質は風邪に効果がある」という設問を「間違っている」と正しく回答した人は31.6%であり、過去数年間よりもやや増加した(2024年 25.9%、2023年 23.0%、2022年 25.2%)。受診時に処方された薬の内容をみると、咳止めや解熱剤、痰切りなど症状を和らげる対症療法薬が中心であり、抗菌薬・抗生物質は5番目に多い項目であった。さらに、今後希望する薬においても抗菌薬は6番目にとどまったことから、かぜ診療において抗菌薬を主目的とする受診は多くなく、症状緩和へのニーズが高いことが示された。

薬の説明は主に薬剤師から受けている人が多く、約9割が内容を理解したと回答していたことから、薬剤師が治療理解を支える重要な役割を担っていることが示された。一方で、理解が十分でない人も一定数存在しており、説明の工夫が求められる。

## 3. 感染症予防対策

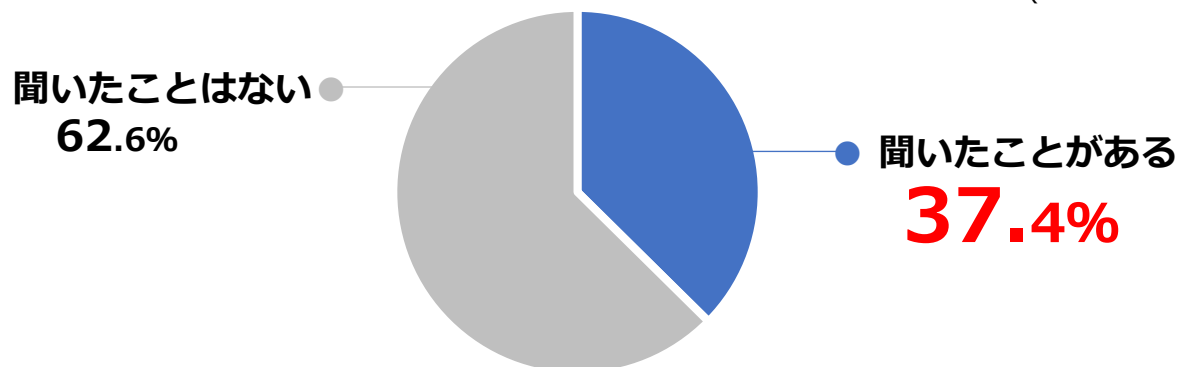
2025年調査では、体調不良時の対応として「休む」と回答した人は45.3%であった。一方、「休みたいが休めない」および「休まない」を合わせた割合は54.7%となり、体調不良があっても学校や職場を休まない人が半数を超える結果となった。Covid-19の流行以降「休む」と回答した人は半数を超えていたが(2021年 50.6%、2022年60.0%、2023年 56.6%、2024年 55.0%)、今年度の調査の結果は、感染拡大防止の観点からは、体調不良時の対応が必ずしも十分とは言えない状況がうかがえる。一方、日常的な感染症予防行動については比較的高い実施率がみられた。「こまめな手洗い」を行っている人は83.6%、「咳エチケット」は77.3%、「マスクを着用する」は64.4%であり、多くの人が基本的な予防行動を意識していることが明らかとなった。また、「ワクチン接種」を行っている人回答した人は41.2%であった。

日常的な感染予防行動は一定程度定着している一方で、感染拡大を防ぐためには、体調不良時に無理をせず、場合によっては休む行動の重要性について、さらなる理解が求められる。

## <抗菌薬の知識>

**Q1** あなたは薬剤耐性、薬剤耐性菌という言葉を知っていますか

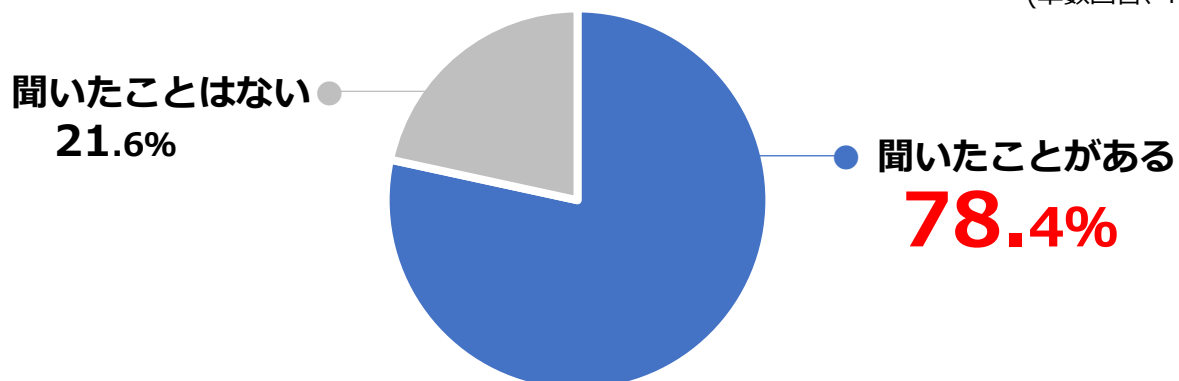
(単数回答、n=735)



※参照：年代別グラフ

**Q2** あなたは抗菌薬・抗生物質という言葉を知っていますか

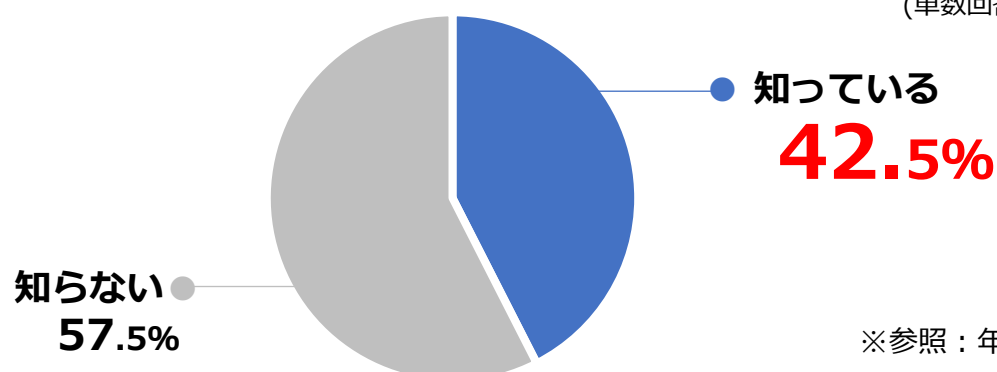
(単数回答、n=735)



※参照：年代別グラフ

**Q3** 抗菌薬を不適切に使用すると体内に薬剤耐性菌が生まれる可能性があることを知っていますか

(単数回答、n=576)



※参照：年代別グラフ

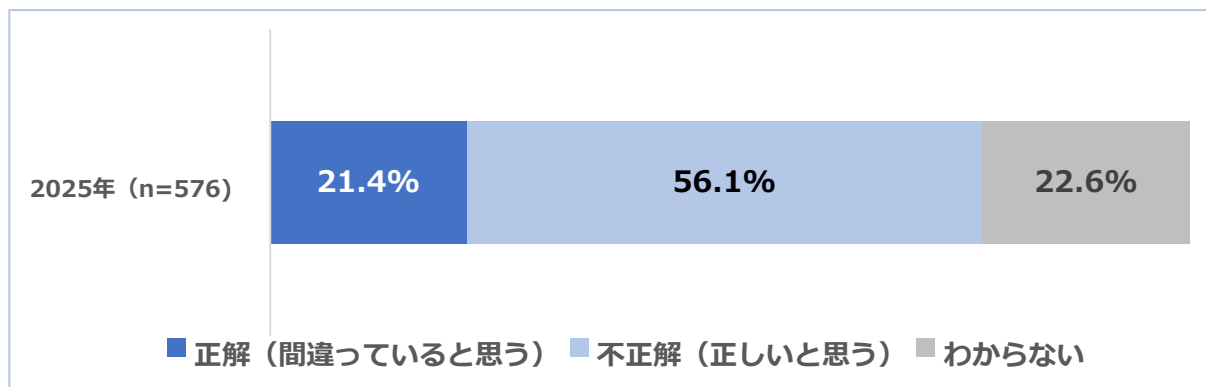
「抗菌薬・抗生物質という言葉を知っている(Q2)」と答えた576人に尋ねたところ「知っている」と答えた人が約4割であった。

※参照：年代別グラフ

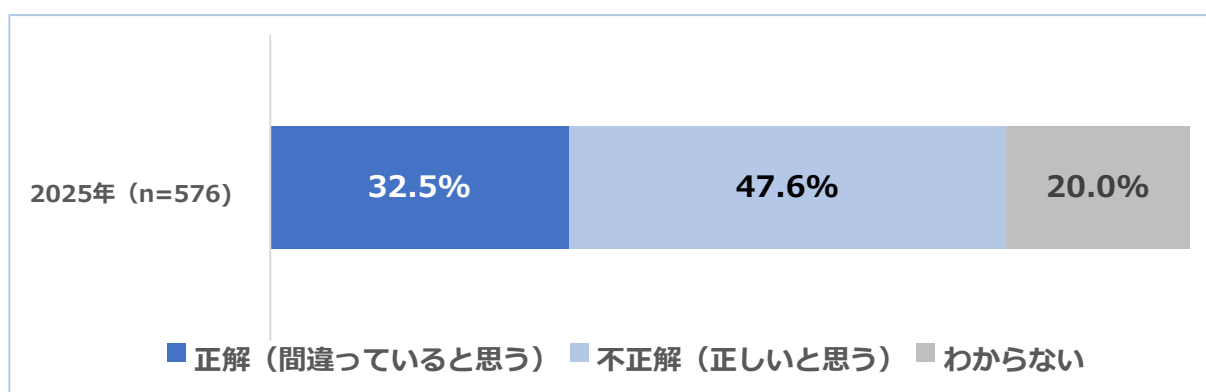
## Q4 抗菌薬・抗生物質についてあなたが当てはまると思うものをお選びください

### Q4-1 抗菌薬・抗生物質はウイルスをやっつける

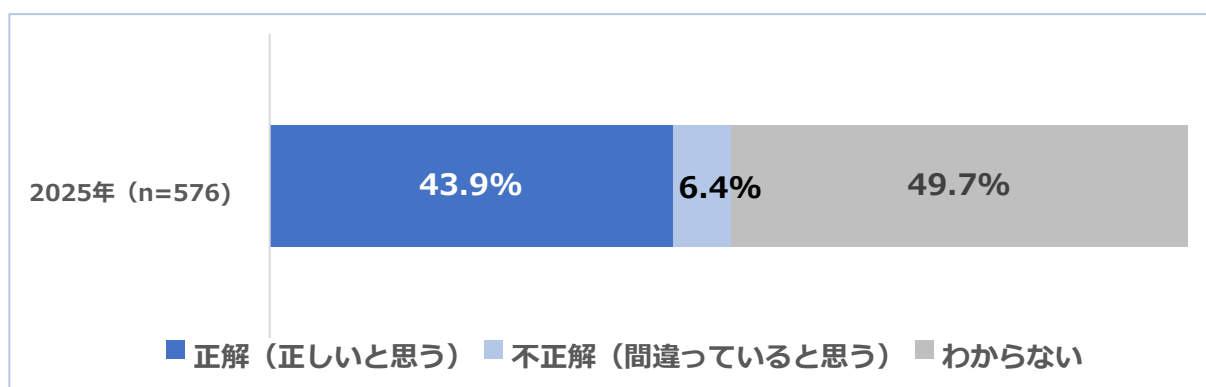
(単数回答、n=576)



### Q4-2 抗菌薬・抗生物質は治ったら早くやめる方がよい



### Q4-3 抗菌薬・抗生物質を飲むと下痢などの副作用がしばしばおこる



「抗菌薬・抗生物質という言葉聞いたことがある(Q1)」と回答した576人に、抗菌薬・抗生物質の知識に関する質問をしたところ、Q4-1、Q4-2ともに正解の人の割合よりも不正解の人の割合の方が多かった。特に、Q4-1では56.1%が不正解で半数を越える結果となった。一方、Q4-3では約4割の人が正解であったが、わからないと回答した人も約5割いた。

## <抗菌薬に対する行動>

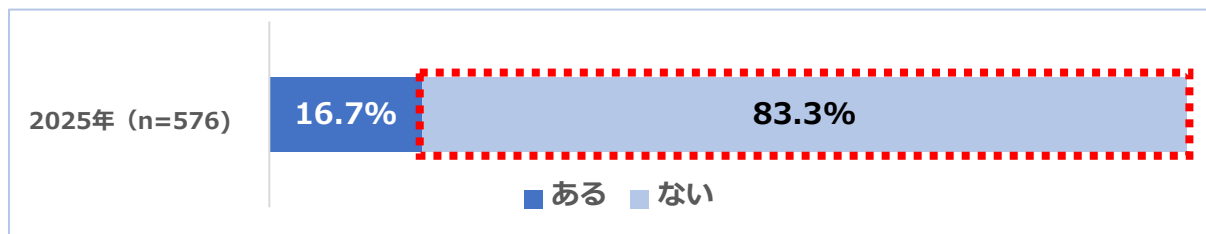
※参照：年代別グラフ

### Q5 抗菌薬・抗生物質に関する経験について教えてください

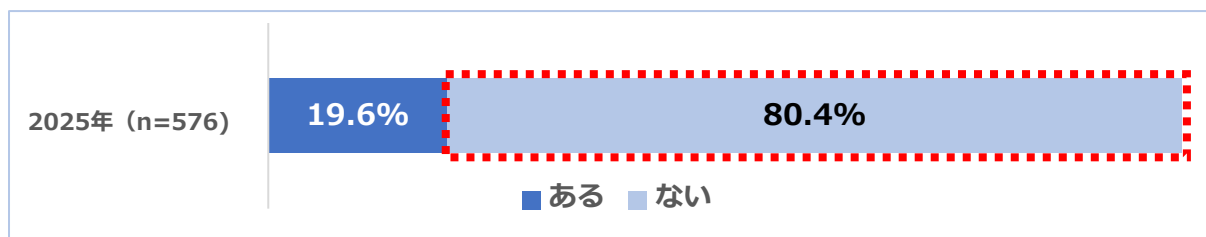
(単数回答、n=576)

赤枠が正しい行動

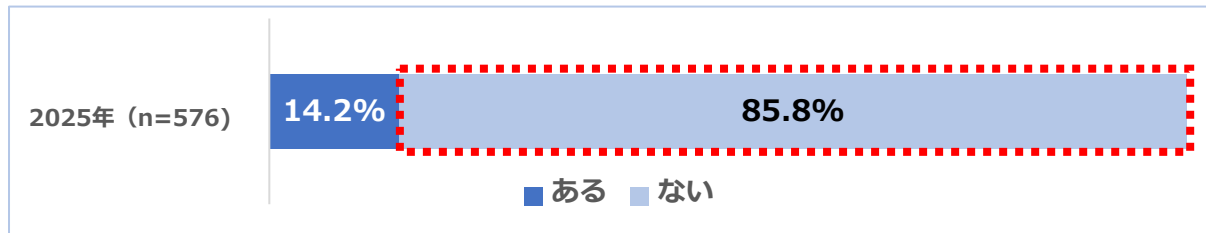
#### Q5-1 家にとっておいてある抗菌薬・抗生物質がある



#### Q5-2 にとっておいた抗菌薬・抗生物質を自分で飲んだことがある



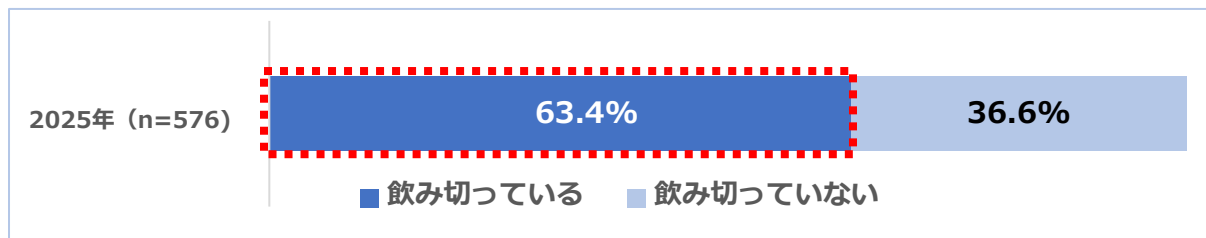
#### Q5-3 他人（家族など）の抗菌薬・抗生物質を飲んだことがある



#### Q5-4 抗菌薬・抗生物質を人にあげたことがある



#### Q5-5 処方された抗菌薬・抗生物質はすべて飲み切っている

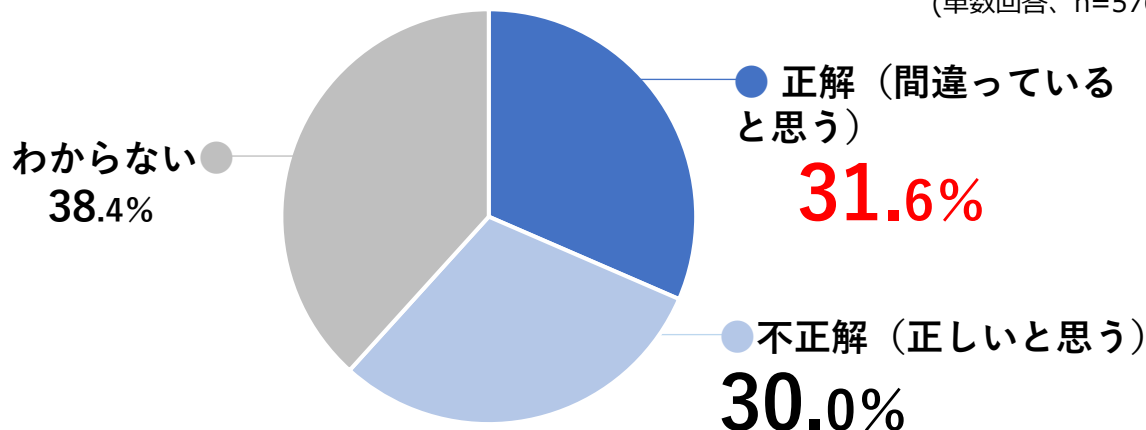


「抗菌薬・抗生物質という言葉聞いたことがある(Q2)」と回答した576人に、抗菌薬・抗生物質に対する行動に関する質問をした。赤枠が正しい行動である。Q5-1からQ5-5までのすべての質問において正しい行動をとっている人がそうでない人よりも多い、という結果であった。

## <風邪と抗菌薬> 特に日本人の誤解が多いと想定される風邪と抗菌薬について焦点をあてる

### Q6 抗菌薬・抗生物質は風邪に効果がある

(単数回答、n=576)

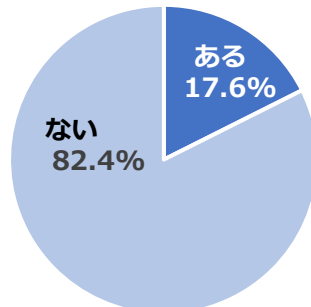


「抗菌薬・抗生物質という言葉聞いたことがある(Q2)」と回答した576人に聞いたところ、「間違っていると思う」と正解を選んだのは31.6%であった。

※参照：年代別グラフ

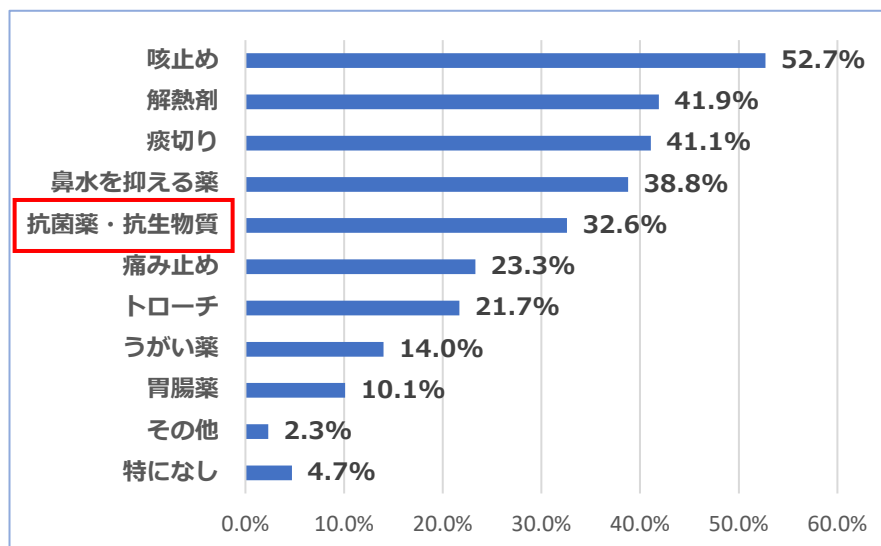
### Q7 2025年1月以降、かぜで医療機関にかかったことがありますか

(単数回答、n=735)



#### Q7-1 受診した医療機関ではどのような薬が処方されましたか

(複数回答、n=129)

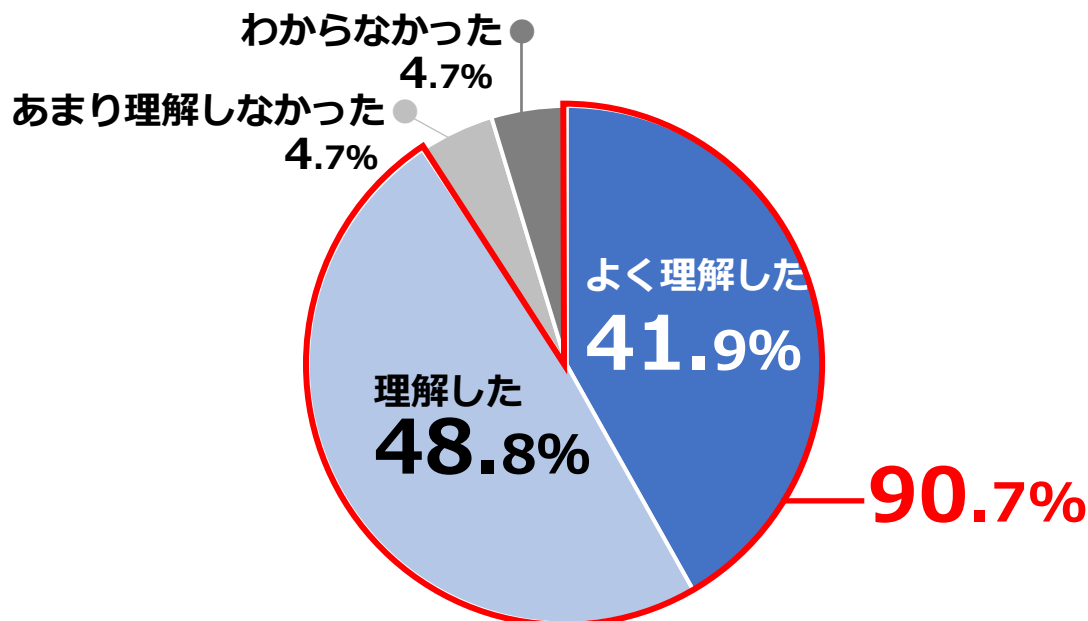


かぜで受診した医療機関でどのような薬が処方されたか選択式で聞いたところ、抗菌薬・抗生物質が5番目に多くなった。

※参照：年代別グラフ

### Q7-2 処方箋について説明を受け、理解しましたか

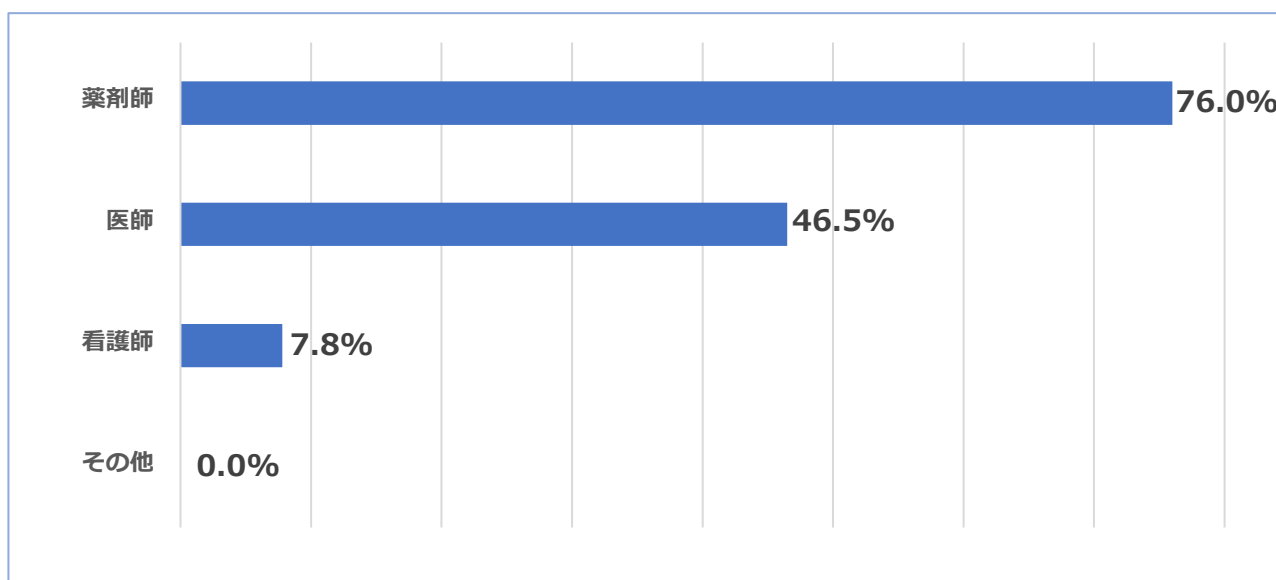
(単数回答、n=129)



「2025年1月以降、風邪で医療機関にかかったことがある(Q7)」と回答した129人に処方箋の説明の理解度について聞いたところ、「理解した」「理解した」をあわせると、約9割となった。

※参照：年代別グラフ

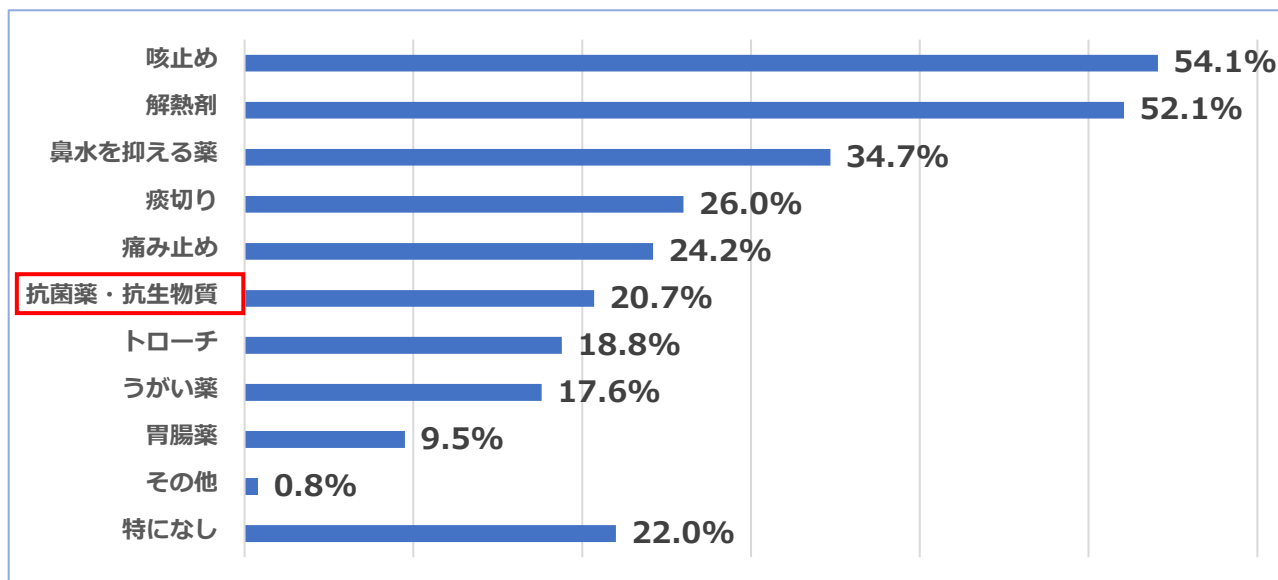
### Q7-3 処方された薬の種類と使い方について誰から説明されましたか (複数回答、n=129)



「2025年1月以降、風邪で医療機関にかかったことがある(Q7)」と回答した129人に、「処方された薬の種類と使い方について誰から説明されたか」聞いたところ、「薬剤師」と回答した人が最も多くなった。

**Q8 今後、風邪で医療機関を受診した場合にどんな薬を処方してほしいですか**

(複数回答、n=735)

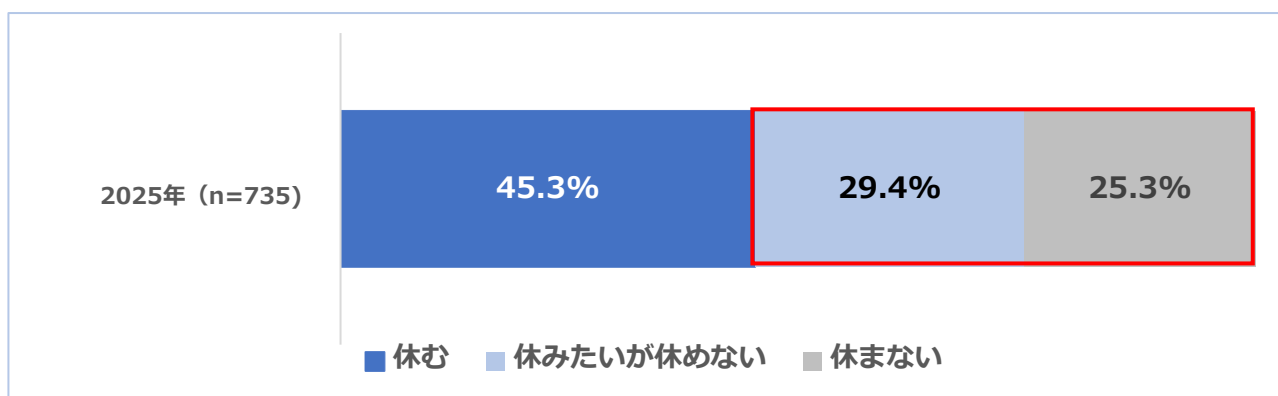


「今後、風邪で医療機関を受診した場合にどんな薬を処方してほしいですか」と選択式で質問をしたところ、「抗菌薬・抗生物質」が6番目となった。

**<感染症対策> コロナ以降5年経過。感染症拡大防止意識についての設問**

**Q9 朝起きたら、だるくて鼻水、咳、のどの痛みがあり、熱を測ったら37℃でした。あなたは学校や職場を休みますか**

(単数回答、n=735)



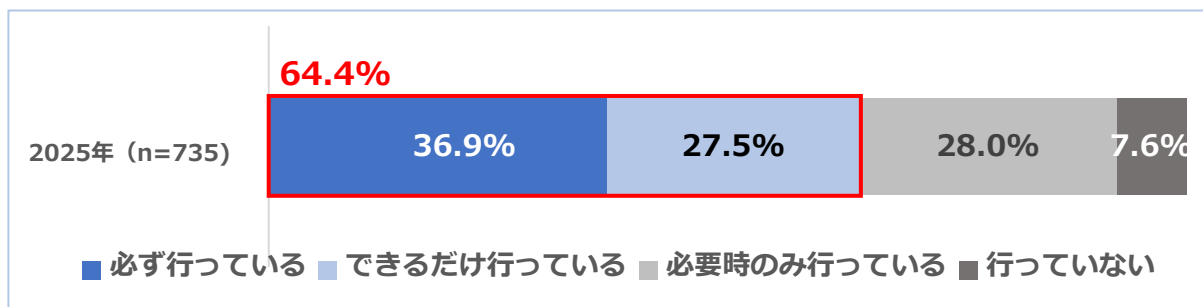
「休む」と回答した人は45.3%、  
「休みたいが休めない」と「休まない」を合わせると54.7%と5割を超えた。

※参照：年代別グラフ

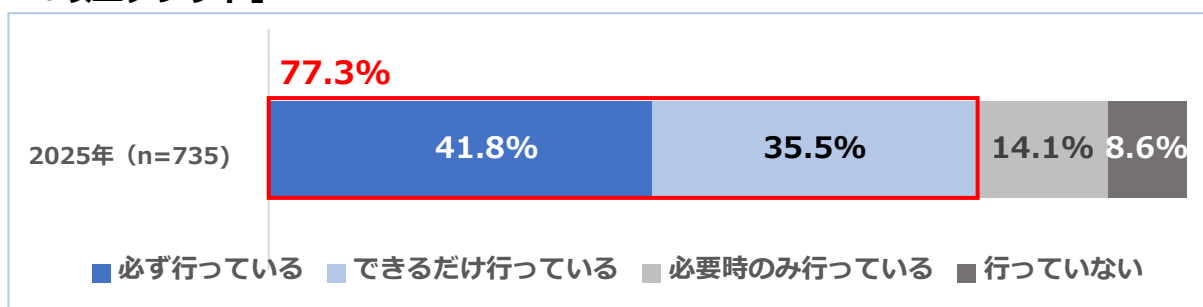
**Q10** あなたが感染症予防対策として、行っていることをお答えください。

(単数回答、n=735)

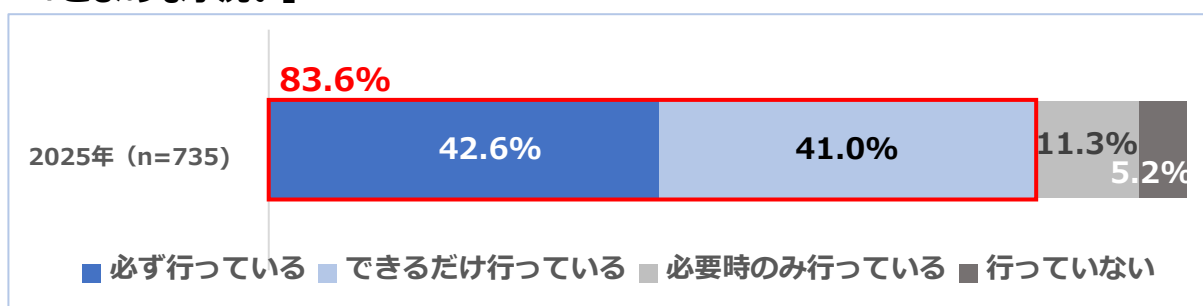
**「マスクを着用する」**



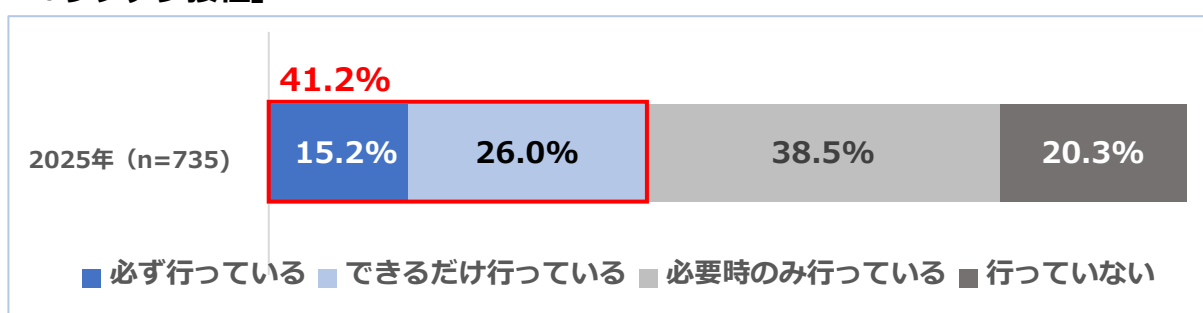
**「咳エチケット」**



**「こまめな手洗い」**



**「ワクチン接種」**



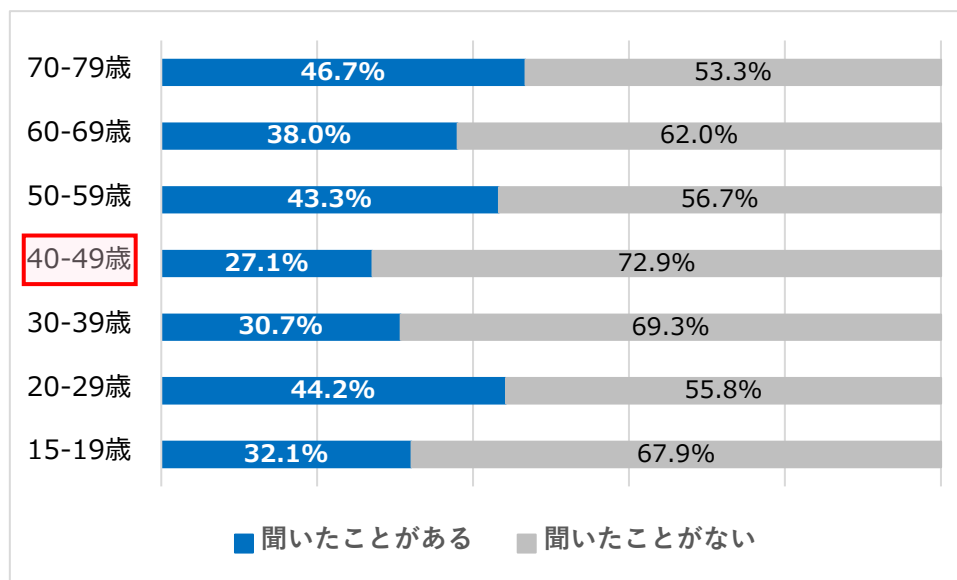
感染症予防対策について聞いたところ、「必ず行っている」と「できるだけ行っている」をあわせると、「マスクを着用する」は64.4%、「咳エチケット」は77.3%、「こまめな手洗い」は83.6%、「ワクチン接種」は41.2%であった。

※参照：年代別グラフ

**参照：年代別集計**

**Q1 あなたは薬剤耐性・薬剤耐性菌という言葉を知っていますか**

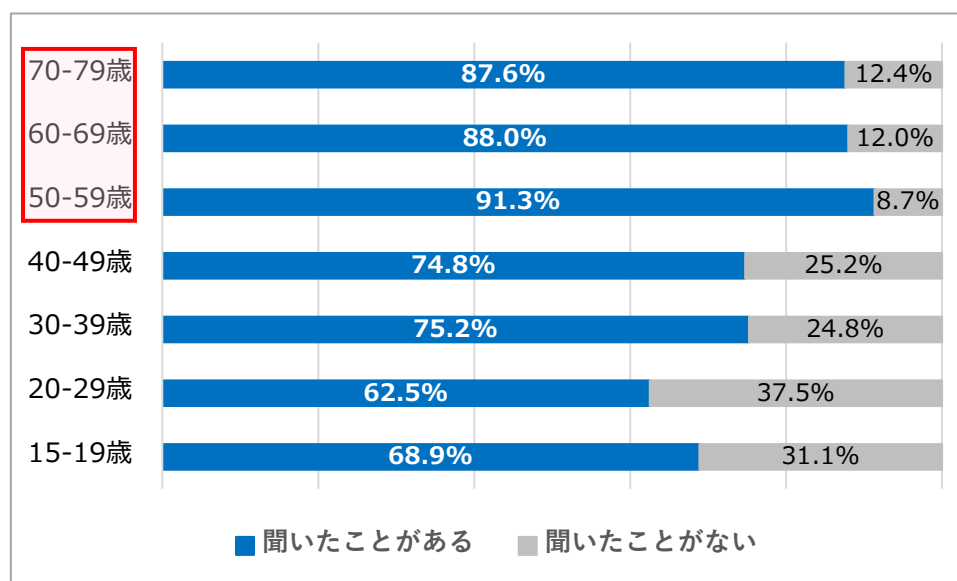
(単数回答、n=735)



※参照：年代別グラフQ1  
40代が最も低い回答となった。

**Q2 あなたは抗菌薬・抗生物質という言葉を知っていますか**

(単数回答、n=735)

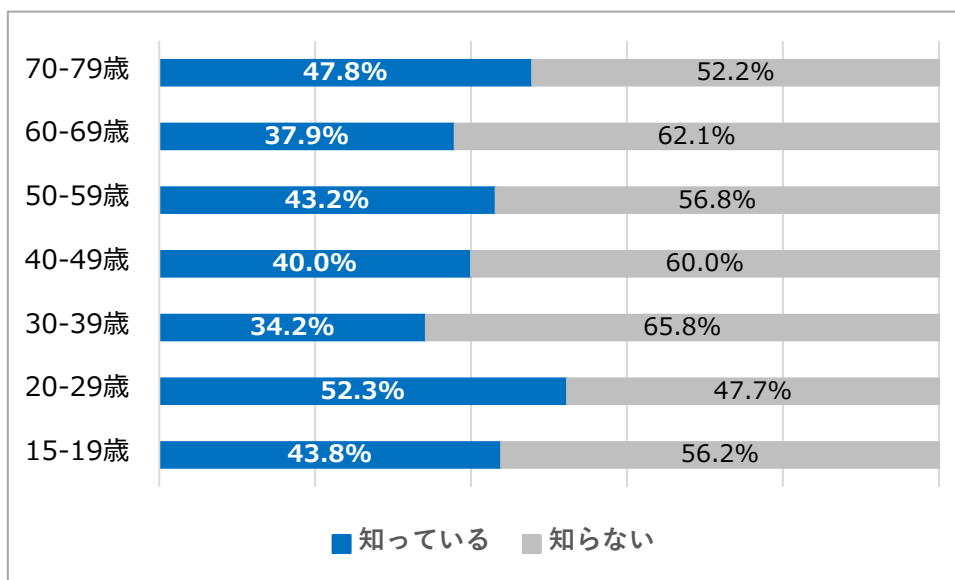


※参照：年代別グラフQ2  
年代が上がるほど、特に50代以上に高い認知がある傾向が見られる。

Q3

抗菌薬を不適切に使用すると体内に薬剤耐性菌が生まれる可能性があることを知っていますか

(単数回答、n=576)



※参照：年代別グラフQ3

「知っている」と答えたのは、20代が最も多く52.3%であった。

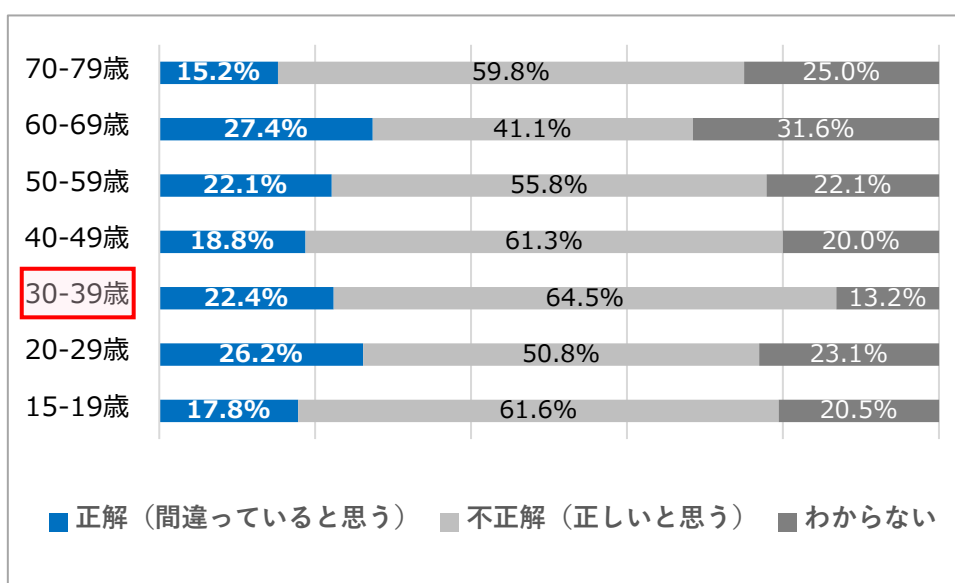
「知らない」と回答したのは、30代が最も多く65.8%であった。

Q4

抗菌薬・抗生物質についてあなたが当てはまると思うものをお選びください

(単数回答、n=576)

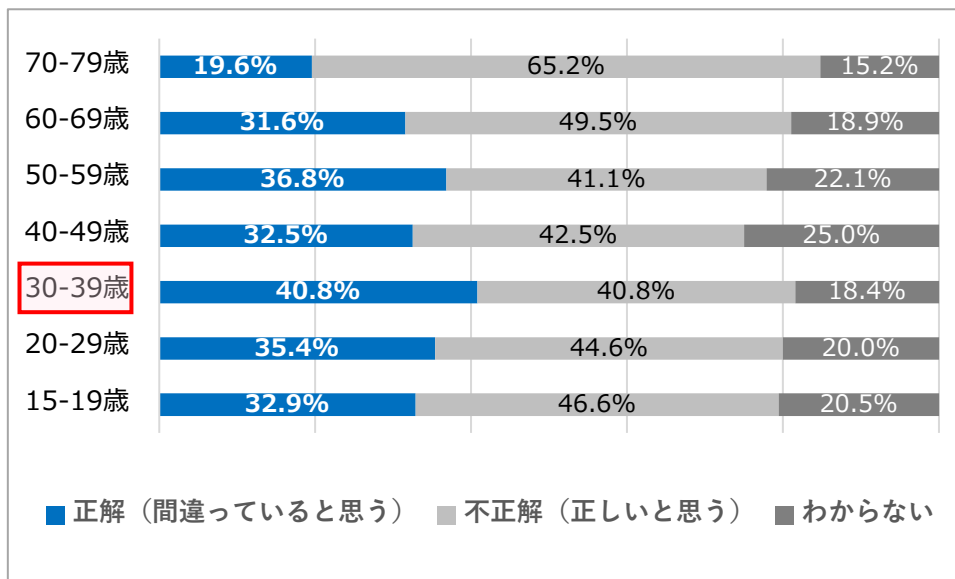
Q4-1 抗菌薬・抗生物質はウイルスをやっつける



※参照：年代別グラフQ4-1

不正解(正しいと思う)は、30代が最も多く64.5%であった。

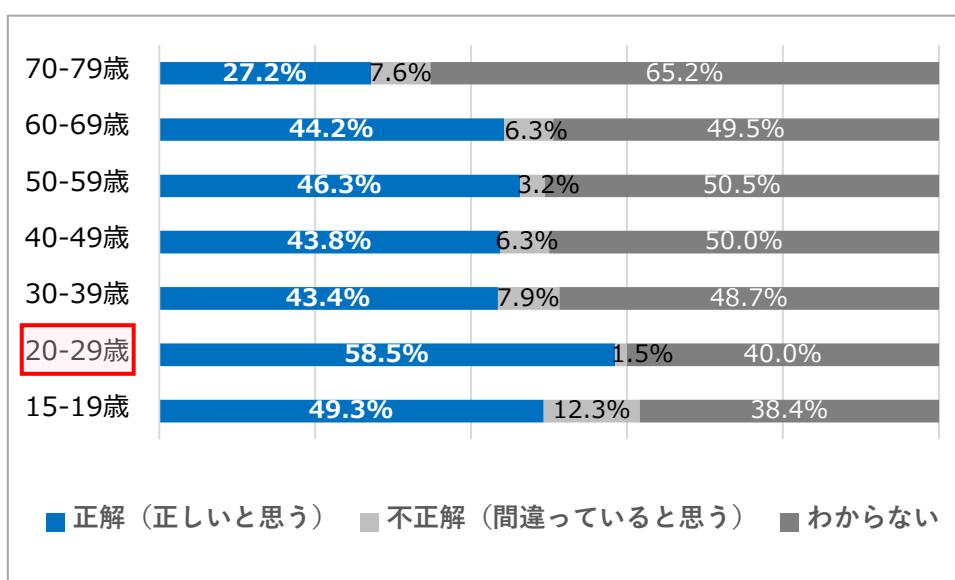
### Q4-2 抗菌薬・抗生物質は治ったら早くやめる方がよい



※参照：年代別グラフQ4-2

正解(間違っていると思う)したのは、30代が最も多く40.8%であった。

### Q4-3 抗菌薬・抗生物質を飲むと下痢などの副作用がしばしばおこる



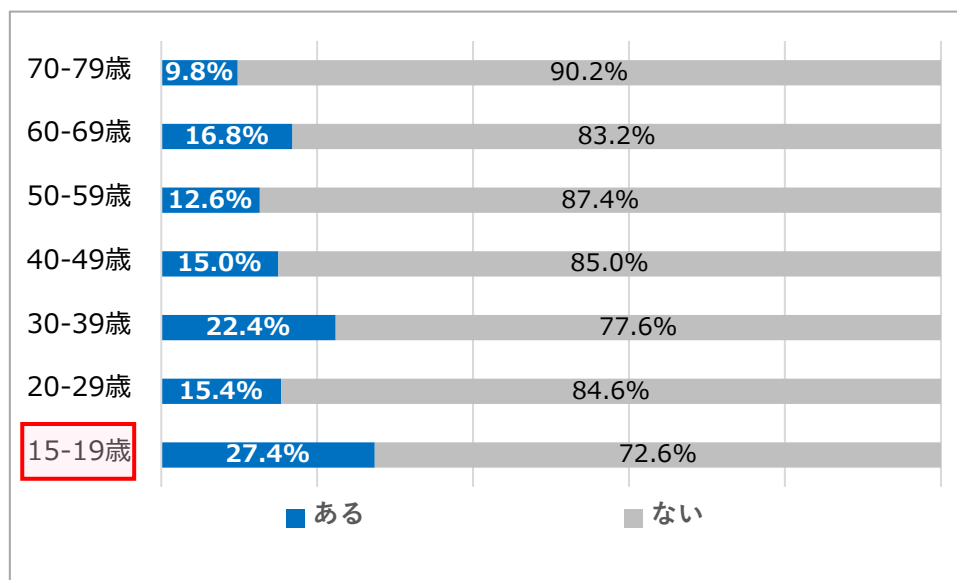
※参照：年代別グラフQ4-3

正解(正しいと思う)したのは、20代が最も多く58.5%であった。

## Q5 抗菌薬・抗生物質に関する経験について教えてください

(単数回答、n=576)

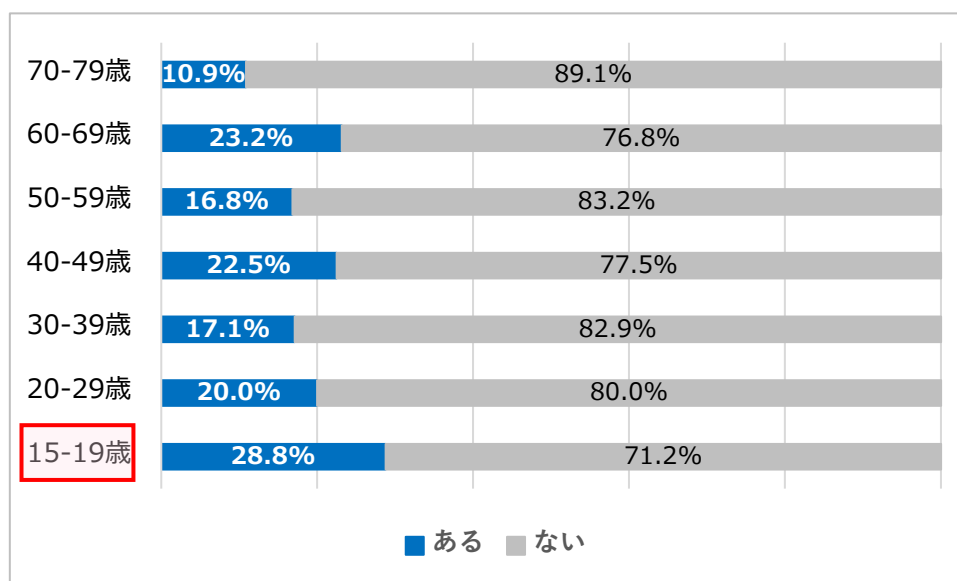
### Q5-1 家にとっておいてある抗菌薬・抗生物質がある



※参照：年代別グラフQ5-1

家にとっておいてある抗菌薬・抗生物質があると答えたのは、10代が最も多く27.4%であった。

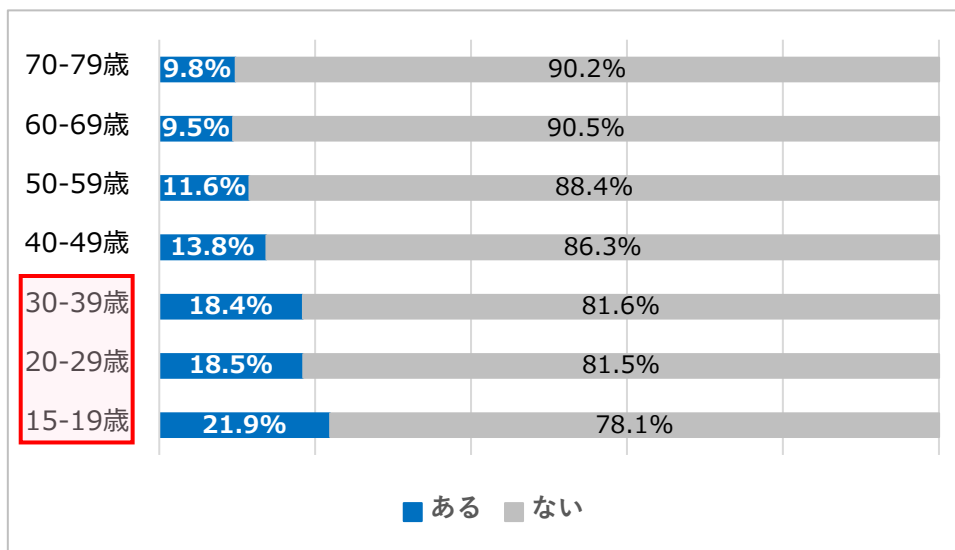
### Q5-2 家にとっておいた抗菌薬・抗生物質を自分で飲んだことがある



※参照：年代別グラフQ5-2

抗菌薬・抗生物質を自分で飲んだことがあると答えたのは、10代が最も多く28.8%であった。

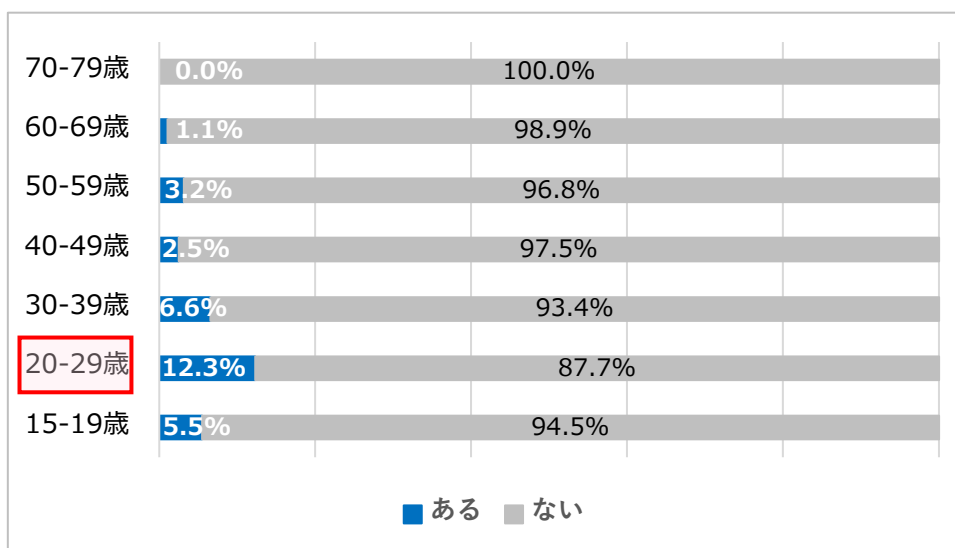
### Q5-3 他人（家族など）の抗菌薬・抗生物質を飲んだことがある



※参照：年代別グラフQ5-3

若い年代ほど他人(家族など)の抗菌薬・抗生物質を飲んだことがある、と回答している。

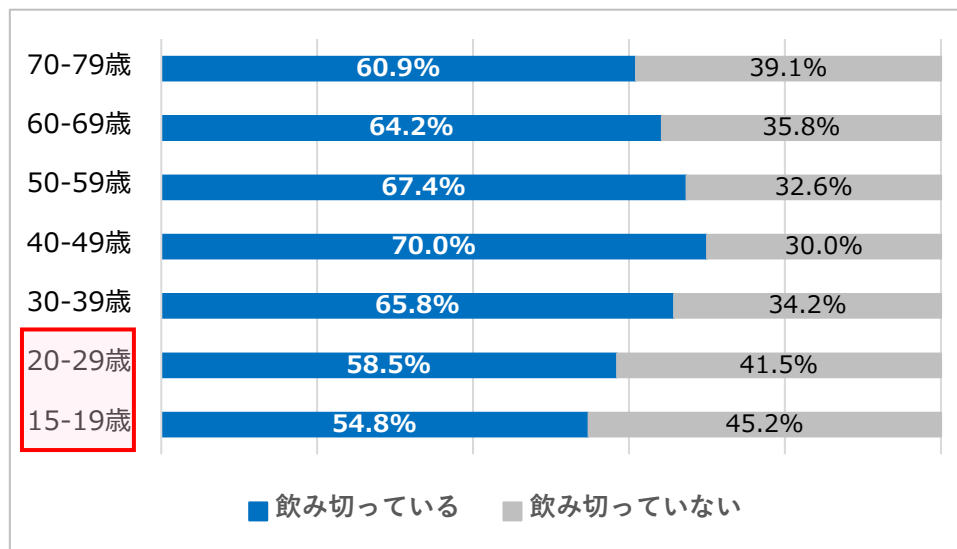
### Q5-4 抗菌薬・抗生物質を人にあげたことがある



※参照：年代別グラフQ5-4

抗菌薬・抗生物質を人にあげたことがあると回答したのは20代が最も多く12.3%であった。

### Q5-5 処方された抗菌薬・抗生物質はすべて飲み切っている

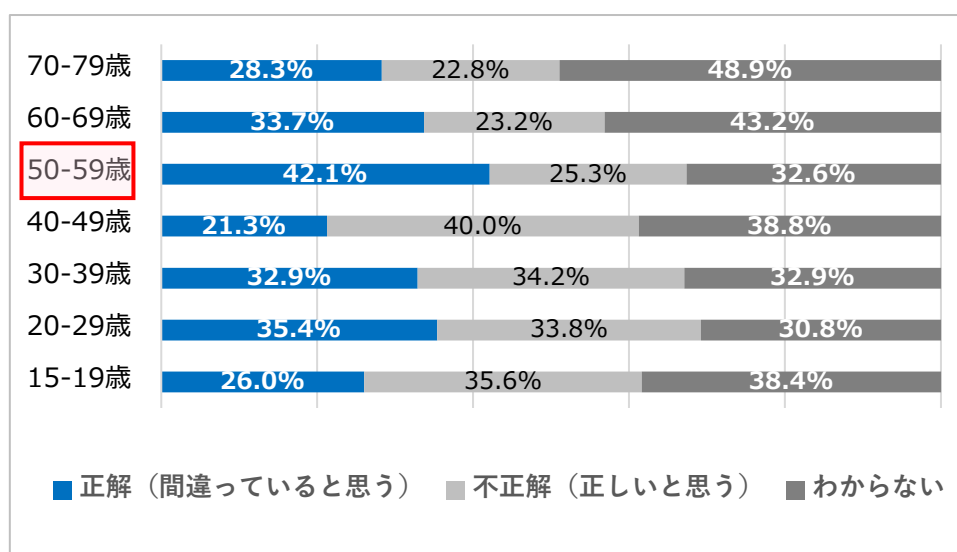


※参照：年代別グラフQ5-5

10代、20代は、他の世代に比較して処方された抗菌薬・抗生物質を飲み切っている人が少ない。

### Q6 抗菌薬・抗生物質は風邪に効果がある

(単数回答、n=576)



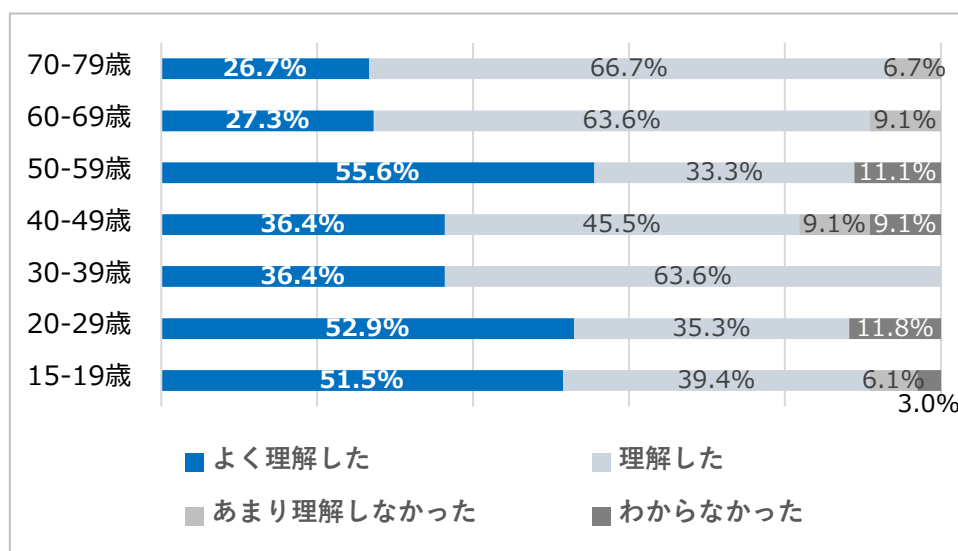
※参照：年代別グラフQ6

正解(間違っていると思う)は50代が最も多く、42.1%であった。

**Q7 2025年1月以降、かぜで医療機関にかかったことがありますか**

**Q7-2 (「かかったことがある」と回答した人に質問)  
処方薬について説明を受け、理解しましたか**

(単数回答、n=129)



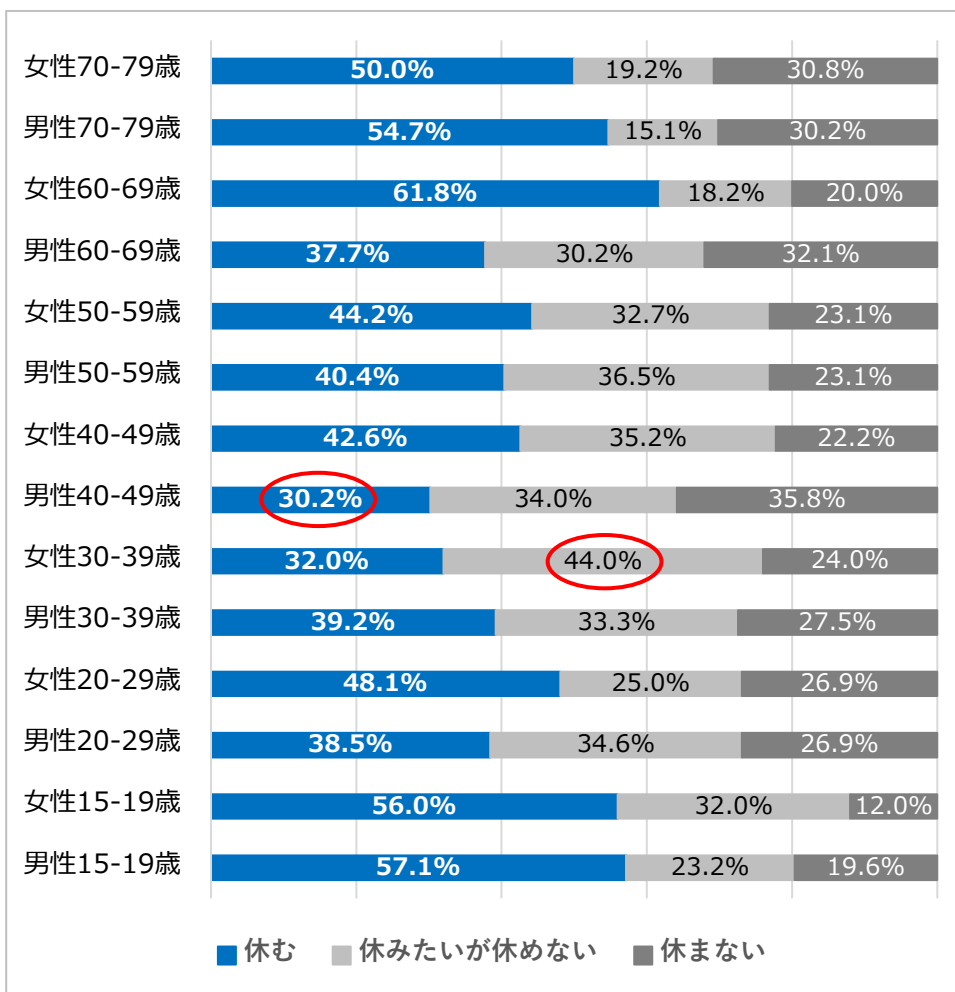
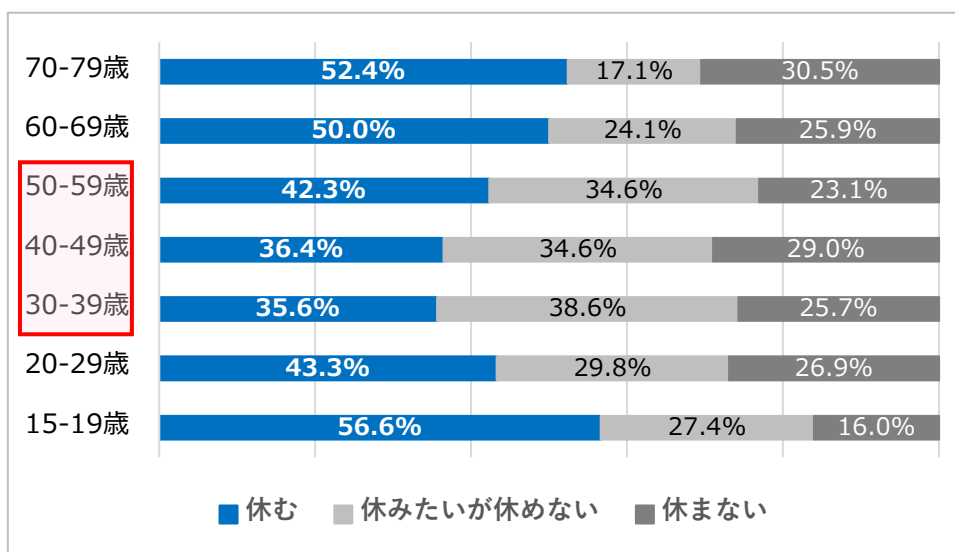
※参照：年代別グラフQ7-2

すべての年代で「よく理解した」「理解した」と回答した人が多かった。

Q9

朝起きたら、だるくて鼻水、咳、のどの痛みがあり、熱を測ったら37℃でした。  
あなたは学校や職場を休みますか

(単数回答、n=735)



※参照：年代別グラフQ9

30～50代で「休まない」「休みたいが休めない」割合が高い

30～40代では「休む」割合が低い

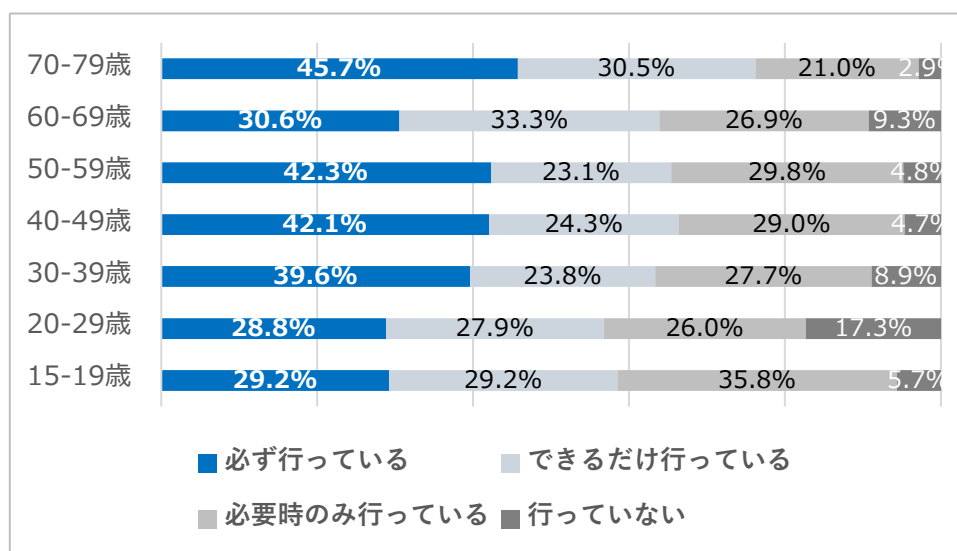
男性40代で「休む」割合が最も低い

女性30代で「休みたいが休めない」割合が最も高い

## Q10 あなたが感染症予防対策として、行っていることをお答えください

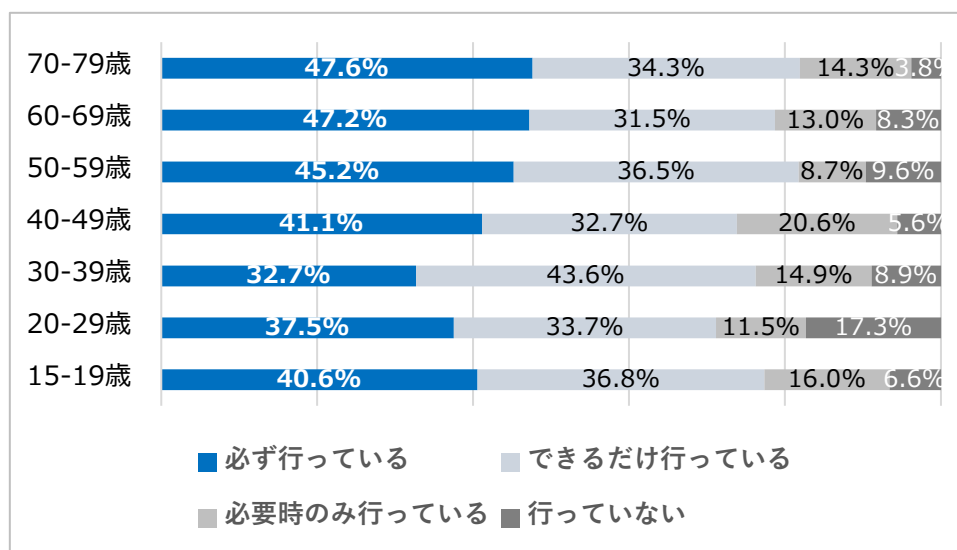
(単数回答、n=735)

### マスクを着用する



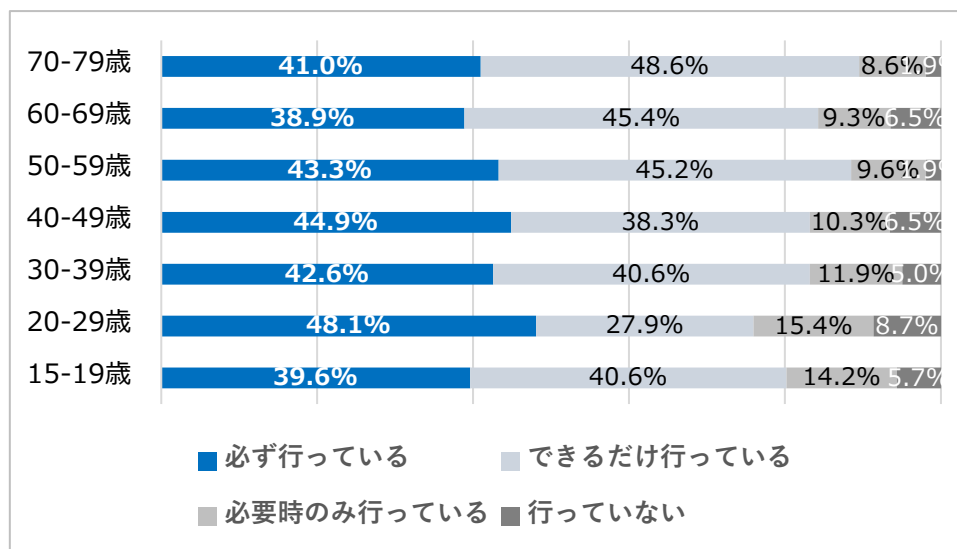
※参照：年代別グラフQ10

### 咳エチケット



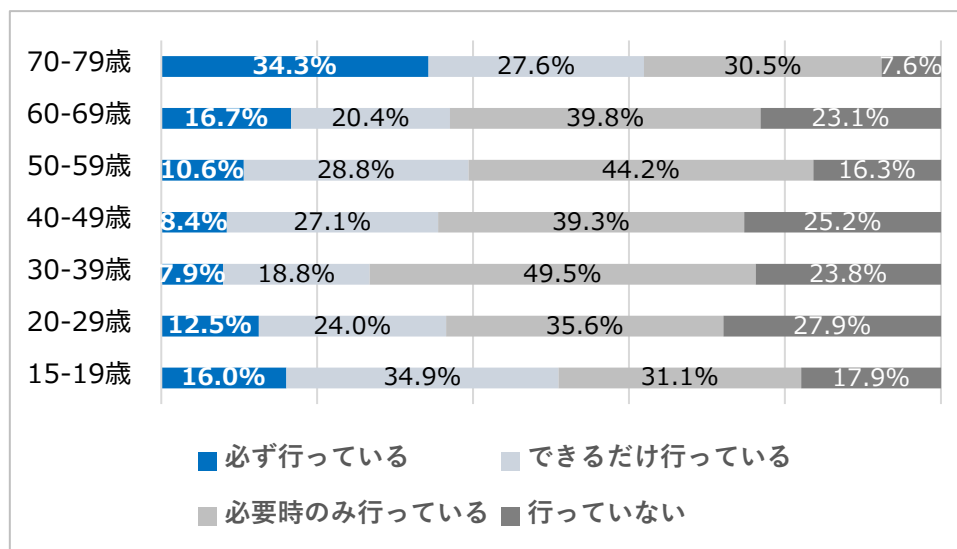
※参照：年代別グラフQ10

### こまめな手洗い



※参照：年代別グラフQ10

### ワクチン接種



※参照：年代別グラフQ10

## AMR対策の必要性

～抗菌薬・抗生物質は不適切な使用により、本当に必要な時に効かなくなってしまう～

抗菌薬(抗生物質)は細菌が増えるのを抑えたり、殺したりする薬です。感染症を治療するには必要不可欠な薬剤です。しかし、抗菌薬を繰り返し使用することにより、抗菌薬が効きにくくなったり効かなくなる細菌が生じることがあります。このように、本来ならば効くはずの抗菌薬が効かなくなることを、「薬剤耐性(AMR:Antimicrobial resistance)」といいます。抗菌薬が効かなくなると、今まで治せていた感染症が治せなくなるだけでなく、手術をとらなう病気やケガなど、さまざまな病気の治療が難しくなる可能性があります。2019年4月29日、国際連合は抗微生物薬が効きにくい「薬剤耐性菌」が世界的に増加し、危機的状況にあるとして各国に対策を勧告しています※。日本では2種類の「薬剤耐性菌」によって毎年国内で約9,000人が死亡しているとの推計が出ており、深刻な影響が懸念されています。

日本では外来での抗菌薬・抗生物質使用が9割以上を占めており、外来診療における抗菌薬・抗生物質の適正使用を推進することが不可欠といえます。

※ No Time to Wait: Securing the future from drug-resistant infections  
Report to the Secretary-General of the United Nations April 2019  
[https://cdn.who.int/media/docs/default-source/documents/no-time-to-wait-securing-the-future-from-drug-resistant-infections-en.pdf?sfvrsn=5b424d7\\_6&download=true](https://cdn.who.int/media/docs/default-source/documents/no-time-to-wait-securing-the-future-from-drug-resistant-infections-en.pdf?sfvrsn=5b424d7_6&download=true)